

見直し対象補助金についての前回（18年度）会議録（公表版）

※番号は、当時の番号です。

※「補助金一覧 No.」は、別添の報告書、最終報告の補助金番号です。

No.94 民間保育施設入所児童助成金（担当課：こども部こども保育課）

【補助金一覧 No.107】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 基本的には、公立保育所で全部入りきれず待機児童が発生している以上は、何らかの形で民間に補助することは仕方ないと思われる。
- ・ 市の施設を増やしたら、もっともっと事業費がかかるであろう。
- ・ いろいろ議論もあるが、この補助金もこのまま継続としたい。

No.95 私立幼稚園就園奨励費補助金（担当課：こども部こども保育課）

【補助金一覧 No.108】

No.96 私立幼稚園類似施設園児補助金（担当課：こども部こども保育課）

《上記補助金は趣旨を同じにするため、結果的に一括して審査した形となった。》

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ この制度は、国の制度及びそれに付随した市独自の施策により実施している補助金であり、他の市でも当然実施している。あとは金額に対する判断となるが、これは極めて政策的な判断になり、こちらの審査としては難しいところがある。このまま継続でいきたいと思う。
- ・ 補助金は継続としても、公立の幼稚園が空いていて民間にいっぱい行っている状況からして、統廃合をも視野に入れて、公立幼稚園のあり方を検討する必要がある。公立が空いているのにもかかわらず、民間幼稚園に対する就園奨励費がたくさんあるというのは、いかがなものか。現在はみんな民間に移行している状況があるので、就園奨励費は良いとしても、やはり公立幼稚園の統廃合を検討する必要があるのではないか。
- ・ No.96も、国の基準に満たないが認可幼稚園と同じ機能を果たしている幼稚園に対する奨励費であり、これも一括して考えて良いのではないか。
- ・ 結論としては、No.95、96ともこのまま継続としたい。

No.32 習志野市社会福祉協議会補助金（担当課：保健福祉部社会福祉課）

【補助金審査 No.59】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 社会福祉協議会は全国どこにでもあり、事業内容もある程度公的な部分もある。事業内容も多岐に渡っており、これを1件1件掘り起こすのは難しい。この委員会とは別に委員会を設置してやる性質のものではないか。
- ・ 社会福祉協議会は財団となっているが、民間組織ではなくて、完全に正職員は公務員と給与体系は同じである。第二市役所みたいなものあり、市役所の業務請負の団体である。しかも、市から派遣されている。この委員会で審査には馴染まないと思う。補助金をカットするのはいいが、事業をひとつひとつ見て、人件費を見て、そこまでカットできない。これはこれで、市の外郭団体の監査、あるいは業務評価の中できちんと指摘していくしかない感じである。
- ・ 人件費を半分にしろというの簡単だが、そうはできない。ただ言えるのは、市からの派遣職員の人件費が高いので、これを嘱託職員に変えればずいぶん軽減される

ことはある。本委員会の意見としては、嘱託職員にする、あるいは高齢者を雇用することによって人件費の削減に努めてほしいということになる。

No.54 社団法人習志野市シルバー人材センター事業補助金

(担当課：保健福祉部高齢社会対策課)

【補助金審査 No.79】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 何とか自立の方向でやってもらいたいと思う。そういう方向でいけないものか。
- ・ 事務局の運営にしても、今は高齢者で元気で能力がある人がたくさんいる。若い人を使うことはない。自分たちで自主運営をする。若いプロパーの職員よりも高齢者の方がコスト的には安い。そういう運営の仕方は色々ある。これから検討していったらどうなのか。
- ・ 民間企業にも派遣している場合もあろうし、そういう収入をプールして、ある一定の金額で分配してあげるようなやり方がこれからは必要だと思う。
- ・ 運営のやり方をもっと考えてもらって、市が今1700万円出しているものを、国と同じ1000万円くらいにしてもらえばいいのではないか。
- ・ 国庫補助金がもらえるものだからということで、あまり手をつけていない。他市でもそうだったが、意外と価格が高い割に質が低いという評価である。その辺に対して補助金が出て、そこを均衡させるのが本来であるが、残念ながら補助金はすべて団体の運営費にいつてしまっている。サービスには全然反映されていないということがある。国庫補助金に縛られないで、自立した経営、しかも派遣の仕事なので、競争力の強化できるような方策を講じるということではないか。
- ・ 補助金に頼るような事業計画にはしない方向、人件費を自前で賄っていただくという方向でいかないといけない。今は補助金が出るから出来るものである。
- ・ 習志野市が委託費等として、相当な金額をシルバー人材センターに発注している。高齢者の生き甲斐対策という主旨で発注しているのに、さらに1700万円も補助金を補助している。シルバーの発注額を増やすと補助金がなくても自立して動ける可能性がある。シルバー人材センターに発注している委託事業は、本来は競争入札すべきものではないか。調達そのものも補助金になっている。市の発注と補助金との関係も考える必要がある。
- ・ 人材の活用という意味では、公民館でもかなりシルバー人材センターを活用して正規職員の代わりをやっているから、シルバーの人をうまく活用していると思う。
- ・ シルバー人材センターについては、自立した経営ができる団体に移行できると思われる。そのため、人件費等の節減を図ることにより、補助金の方は減らしていくという方向性でまとめたい。

No.52 老人クラブ事業補助金 (担当課：保健福祉部高齢社会対策課)

【補助金審査 No.80】

No.53 高齢者スポーツ大会補助金 (担当課：保健福祉部高齢社会対策課)

《上記補助金は交付先を同じにするため、一括して審査した形となった。》

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 今にあって60歳以上を高齢者として捉えるべきなのか。60歳だと高齢者という域

ではないと思う。

- ・ 補助金以上に市の職員の人件費がかかっている。すべての補助金がそうだが、市が中心となってなんでもやろうという気がする。高齢者自身にやってもらうことが重要なのではないか。少なくとも補助金を支給するのだったら、その人たちが自立してやっていかなければならないと思う。
- ・ 制度として準会員という制度を作るべきではないか。入会資格を線引きするから運営がいつまでも年寄りばかりになってしまい、あまり入れ替わりがない。そうすれば老人クラブの運営も活発化できるし、補助金も減らせることができると思う。
- ・ 老人クラブは会員数がなかなか増えない。60歳以上の方はたくさんいるが、入らない方がたくさんいる。増えているのか減っているのかが一つの目安になるのではないか。
- ・ 高齢者スポーツでは消耗品に相当の金額が使われている。参加者ひとりあたりにするとすごい金額である。もっと縮小ができるのではないか。補助金があるから使うように見える。
- ・ 補助金の趣旨と効果、組織率と活動のスタイルからいうと、全体の老人クラブの運営の政策目標ないし運営の仕方を考えるべきである。
- ・ 高齢者スポーツ大会は参加者が負担していない。賞品をもらって帰るのだから、参加費をとるべきではないか。
- ・ 芸能大会などは、あじさいクラブ連合会の補助金の中に入っている。スポーツ部分だけあえて分けなくてもいいと思う。連合会に一括して補助金を出すのでその中でやってくださいとすればいい。また、一括する中で中身を精査して、金額的に減らすこともできるのではないか。
- ・ 高齢者対策は防災とも大きく関係している。災害があったときにこそ、こういう近所付き合いが大切になってくる。引きこもりの高齢者を少なくするのが、高齢者対策の第一ではないか。そういう人たちに外に出てもらうためのレクリエーションでありスポーツである。始めはそういう意図だったと思う。原点に戻って考える必要がある。
- ・ 昔の考え方というレクリエーション大会やスポーツ大会に補助金を出すことは普通に行われてきたが、今は単なるレクリエーションに補助金を出す時代ではない。レクリエーションそのものは呼び水であって、全体の高齢者福祉・安否確認・健康維持にどう役立つかに変わってきている。政策の方向性が変わってきているので、そこら辺の整理をする必要がある。
- ・ 色々見ると、削るべきところはたくさんある。数値を見直すことは十分できる。
- ・ No.52とNo.53の補助金は、整理統合とし、その上で削減を図るという方向性にしたい。

No.28 防犯灯維持管理費補助金（担当課：都市整備部道路交通課）

【前回配布の資料2に掲載済み】

No.69 習志野文化ホール助成費（所管課：生涯学習部社会教育課）

【補助金審査 No.95】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ リニューアル時の借入金の返済の負担が大きい。借入先を変えるとか、借り換えをするとかはできないものか。これだけでも大きく違う。
- ・ 相当の額の補助金だから、何とか自立してもらえるように努力してもらいたい。もっともっと、自立する意識が必要なのでは。

- ・ 1500人の収容能力がある。いつも空きがないようにして一杯にすればそれだけの収入が得られる。だから、もっとお客さんが入るイベントを考えれば、もっと収入が上がる。そうすれば自主的な運営が可能ではないか。
- ・ 他市と比較しても稼働率は相当良いと思う。相当頑張っている。
- ・ 決算数値から判断しても、思ったよりも相当良い。
- ・ 教育的な利用も多く、そのため習志野市は、「音楽のまち」と呼ばれている。
- ・ 頑張っているが、自立は難しいと思う。どこの文化ホールも見ても完全自立は過去にない。そうすると、どういう自立の形態をとるかである。定額の基準を設けて、それ以上で赤字になったら自分たちでやってもらうとか。民間の場合は厳密にいくらか委託を受けるかであるので、あとは自分たちで稼いだ分は全部自分たちに入ってくるのかにして、その金額がある程度積み上がれば民間としても十分やっていける可能性はある。
- ・ これは、この委員会ですべて審査することは難しいと思う。個々に削るというレベルになると、これだけで委員会を開かないといけない。
- ・ 借り換え、料金値上げ、業務の民間委託など全体的な見直しをして、補助金の削減に努めるということではないか。大きく言えば民間委託して貸館業務に特化して稼ぐとかいう方法もあるのではないか。
- ・ この補助金は、全体的な支出の見直しを図ることにより、補助金を削減してもらうということにしたい。

No.35 習志野市体育協会活動費補助金（担当課：生涯学習部生涯スポーツ課）

【補助金審査 No.87】

《補助金審査委員会としての論点》

- ・ 各団体からも体育協会に負担をしてもらって、市の補助を減らすような仕組みを考えたらどうかと思う。各団体が人数に応じてもうちょっと負担をして、市の補助金を下げる努力をしてもらったらどうか。各団体がある程度恩恵を受けるのであれば、もう少し負担をしていただく。また各団体が一律の負担ではなく、団体の人数等によって負担額を決定する方法もあるのではないか。
- ・ この団体はどこまで自立した団体なのかということでないだろうか。おそらく事務の大半は市でやっているはずである。逆な発想だが、協会から委託を受けて市が事業をやる方法もある。市が協会の業務委託を受けて、市の業務としてやった方が絶対効率的である。逐一お金のやりとりをする必要がなくなる。
- ・ 補助金だけを見ってしまうと、この事業の実態は見えてこない。職員の人件費を含めるとおそらく数千万円かかっているのではないか。本来かかる費用・経費を明示すべきだと思う。
- ・ 補助金の最大の項目が団体活動費・団体運営費という名目で、各団体に補助金が配られている。この中身がよく分からない。このあたりを整理する必要がある。各団体が負担金を払いながらそれ以上の金額を補助金としてもらっている可能性があるのではないか。お金の流れをすっきりさせる必要がある。
- ・ 全体的にもっと運営自体の見直しをする必要があるのでは。
- ・ 生涯スポーツ課にある事務局を独立させ、自主運営ができるようにしてもらうことも必要である。自分たちで何とかやっていけるようにしてもらえば、理想である。